

氏名	善生 まり子	部署	看護学科	職名	教授
研究分野	看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	1991年北里大学看護学部、1999年北里大学大学院 看護学研究科 修士課程（健康看護学）、2018年北里大学大学院 看護学研究科 博士後期課程（看護生涯教育学）				
経歴	1991年学校法人北里研究所北里大学東病院消化器外科（看護師）、1992年富士宮市役所保健センター（保健師）、1996年秋田市医師会立秋田看護学校（専任教員）、1997年秋田大学医療技術短期大学部看護学科（助手）、1999年学校法人北里研究所北里大学東病院 治験管理センター（看護師：非常勤）、保健同人社 電話相談（保健師：非常勤）、2001年公立大学法人埼玉県立大学 保健医療福祉学部看護学科（助手）、2005年同大学（講師）、2014年同大学（准教授）、2021年同大学（教授）				
所属学会（役職）	日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護学会、日本在宅ケア学会、日本認知症ケア学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会、日本老年看護学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本サルコペニアフレイル学会、日本地域看護学会、日本看護歴史学会、みんなの認知症情報学会、日本看護倫理学会				

【2023年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	看護師・准看護師・看護補助者の連携・協働の課題と展望	単著	なし	Nursing BUSINESS、17(10)、888-893	善生まり子	2023年10月
2	看護補助者を魅力ある職業とするための方策 - A法人看護補助者アンケート調査報告 -	共著	あり	全日本病院協会雑誌、34(1)、255-259	真々田美穂、善生まり子、林勝枝、横山幸子	2023年10月
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	看護補助者の首尾一貫感覚と社会背景及び職種の魅力に対する自己評価との関連	共同	第27回日本看護管理学会学術集会、東京都	○善生まり子、真々田美穂	2023年8月	
2	一般病棟看護師の看護チーム連携に起因するヒューマンエラーに係る認識	単独	第49回日本看護研究学会学術集会、オンライン	○善生まり子	2023年8月	
3	皮膚・排泄ケア認定看護師による介護老人福祉施設への遠隔褥瘡コンサルテーションの試み	共同	第54回日本看護学会学術集会、横浜市	○島田美穂、林裕栄、武田美津代、善生まり子、辻玲子	2023年11月	
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	草加市男女共同参画プラン2021 年次報告書及び達成状況の評価【令和4年度事業】「第2部 達成状況の評価」p45-55	共著	草加市ホームページ https://www.city.soka.saitama.jp/cont/s1402/010/020/010/R5p1anhyouka.pdf	○草加市市長、草加市男女共同参画委員（委員13名、うち善生まり子）	2024年1月	

2. 競争的資金等の研究				
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	インクルーシブ高齢者ケアに係る看護チーム業務分担・協働を支援するAI導入実証研究	研究代表者	2022年4月～2025年3月
2	公立大学法人埼玉県立大学共同研究	看護チームにおける心理的安全性を高めるためのAIロボット応用に関する研究	研究代表者	2023年4月～2024年3月
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	老年看護学Ⅳ（地域ケアシステム）		8	老年看護学実習Ⅱの体験のリフレクションを通して、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割に関して、グループワーク・全体共有に関するファシリテーションを実施した。
2	IPW論（専門職連携実践論）① 博士前期課程		4	リアルタイム方式のオンライン学習により、「保健医療福祉分野における専門職連携教育（IPE）」を担当し、学生時代及び就業体験後のIPWの振り返りを促し、最終的な成果発表に寄与した。事例検討発表会及び全体討議のファシリテーションを行った。また、授業運営に積極的にかかわり科目責任者をサポートした。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	老年看護学Ⅱ（援助技術）	○	15	科目責任者として、新型コロナウイルス感染症の流行状況及び大学方針を照らし合わせ、対面（高齢者模擬体験）とリアルタイム配信の講義・演習と組み合わせで授業を運営した。学生が、老年看護学実習Ⅱにおける実在の事例へ看護援助が行えるよう、先んじて、要介護状態にある高齢者への援助技術を多角的に学べるよう工夫した。老年看護学領域教員によるオムニバス形式の演習とした。活動能力が低下した高齢者への援助、認知症のある高齢者への援助、嚥下・口腔機能の低下した高齢者への援助、パーキンソン病のある高齢者の援助等、グループワーク、体験、講義聴講を組み合わせた。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	老年看護学実習Ⅰ		2023年4月～6月	科目担当者として、実習施設である公立の老人福祉センターにおいて、学生が利用者とのコミュニケーションの機会、施設見学等を通して高齢者の心身・社会的側面の理解が深まるよう、実習指導者との連絡調整を密に行い、毎回のカンファレンスに参加した。
2	老年看護学実習Ⅱ	○	2023年10月～12月	科目責任者として、実習施設への依頼・実習指導者会の運営、学生への実習オリエンテーション開催等、統括している。新型コロナウイルスなどの感染症の流行状況及び大学方針を照らし合わせ、各実習施設との綿密な連絡・調整により、臨地（医療機関または介護老人保健施設）での実習を行っている。学生の受け持つ事例（高齢患者）の選定及び、臨床現場での学生の看護援助、各種カンファレンス運営は、実習指導者と教員共に行い、学生の主体性が伸びるよう、実践中及び実践後のリフレクションをファシリテートしている。1クール2週間、学生5～6名を担当し、それを4クール行った。

3	総合実習		2023年4月～7月	学生の主体的な学習態度を形成でき、実習展開を促進する目的で、文献抄読会及び実習計画作成等のゼミを6回行い、個別・グループ指導した。対面実習のため、実習指導者との事前連絡調整を綿密に行い、学生の看護実践能力に関わる課題および実習目標を共有し、実習のあり方について相互に理解できるよう努めた。	
4	IPW実習		2023年8月～10月	3年ぶりの対面開催であったため、施設FTおよび同施設の教員FTと協力して臨地実習の準備に取り組んだ。2チーム学生12名が協力し合えるよう、学びが深められるようにリーダーとして調整した。	
(4) 論文指導					
	対象		期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文		2023年4月～2024年1月	主指導 3名	副指導 0名
2	修士論文		2023年4月～2024年3月	主指導 (指導教員) 1名	副指導 (指導補助教員) 0名
(5) その他					
	名称		期間	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	該当なし				
4. 社会貢献活動					
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称		主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	メディカルトピア草加病院看護研究指導 (対面開催)		メディカルトピア草加病院看護部	4つの看護研究課題について、看護研究指導を行った。院内の研究発表後、院外の学術集会または研究会への発表、論文作成を支援した。	2023年4月～7月、 2024年1月～3月
2	メディカルトピア草加病院看護研究発表会講評 (対面開催)		メディカルトピア草加病院看護部	4つの看護研究課題 (看護係長、2つの病棟、外来) について、院内研究発表の講評を行った。	2023年7月
3	専門職連携を学ぶ講座「多職種のためのチームビルディング研修」		埼玉県立大学	教員5名で担当。研修のリーダーとして企画・運営・講師を実施した。講師として、チームおよびチームビルディングの理論と背景、演習を担当した。	2023年6～7月
4	専門職連携を学ぶ講座「多職種のためのIPW実践事例研修」		埼玉県立大学	教員5名で担当。研修運営・講師を実施した。講師として、IPWとリフレクションを担当した。	2023年10～12月
5	看護学科の臨地実習教育協議会		埼玉県立大学	看護学科の実習計画調整会長として、協議会の企画・運営にかかわり、看護学科の実習指導状況について報告した。	2023年9月
6	看護学科の臨地実習指導者研修会		埼玉県立大学	看護学科の実習計画調整会長として、研修会の企画・運営にかかわり、看護学科の「ハラスメントの防止にむけた実習ガイドの改訂」を報告した。	2024年1月
7	産学連携と研究シーズ (Web・冊子)		埼玉県立大学	看護チーム連携とインクルーシブケア促進の研究を紹介している。	2023年4月
8	獨協医科大学埼玉医療センター看護部 クリニカルラダーⅢ看護研究Step1研修 講師 (オンライン開催：リアルタイム配信)		獨協医科大学埼玉医療センター看護部	看護師10名の個々人の看護研究指導 (3回、20分/人/回) を行った。研究テーマ決定から研究計画作成まで。	2023年9～11月
9	社会福祉法人誠会及びNPO法人誠会の職員研修「チームビルディング研修」		社会福祉法人誠会・NPO法人誠会合同	各法人誠会の要望に応じて、職員のチームビルディング研修として、リーダー研修15名、職員研修①15名、職員研修②25名を2回実施した。リーダー役割を担った。	2024年1～2月

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	草加市総合政策部 人権共生課	草加市男女共同参画審議会副会長	2019年4月～2024年3月	
2	ANS研究会 (ANS:アメンバーナーシングシステム)	ANS研究会顧問	2021年10月～2024年3月	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	ANS研究会	ANS研究会定例会に3回/年参加し、毎回、会員の討議についてコメントした。	2023年4月～2024年3月
2	産業支援	ラジエンスウエア社	埼玉県立大学共同研究「一般病院の看護業務におけるAIロボット応用に関する研究」を通して、ラジエンスウエア社による看護業務のサポートロボットの開発を支援している。毎月1回定例ミーティング(オンライン)開催。	2022年4月～2024年3月
3	地域貢献活動	富士宮市心身障害児家族会 さんざしの会	さんざしの会の賛助会員として会の活動をサポートしている。	通年
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	地域産学連携委員として活動した。		2022年4月～2024年3月
2	全学的委員会及びセンター業務等	専門職連携部会部会長として活動した。		2022年4月～2024年3月
3	学科等における委員会等	看護学科ハラスメント防止プロジェクトチームとして活動した。		2023年4月～2024年3月
4	大学広報活動	高校教員向け相談会にて、相談を担当した。		2023年6月
5	全学的委員会及びセンター業務等	教員人事委員会における資格審査会委員を担当した。		2023年9月～10月
6	全学的委員会及びセンター業務等	教員審査(内部昇任)の審査委員を担当した。		2023年12月
7	全学的委員会及びセンター業務等	IPEセンター準備委員を担当した。		2023年4月～2024年3月
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	「看護学実習におけるハラスメント防止のための教育者の倫理指針」(2024年度版の看護学科の実習ガイド掲載、2023年10月作成)の作成に主体的にかかわった。			